

守高生の規範意識を育てる

―地域と連携し、体験活動を重視した道德教育の実践―

愛知県立守山高等学校 菅原 弘勝

1 はじめに

本校は地域の強い要請に応え、昭和49年に東谷山麓の志段味の里に産声を上げて以来、本年度で開校36年目になる。開校当初は地元の生徒が多く集まり、地域の発展とともに地域に根ざした学校という目標を掲げ、進学実績も高く部活動も盛んであった。

しかし、開校20年を過ぎるころから、生徒の状況に少しずつ変化が生じてきた。その原因として、複合選抜入試制度の導入や、生徒数の増大に対応して近隣地域で新設校開校、それに伴って本校生徒の通学地域拡大など、本校を取り巻く様々な状況の変化が挙げられる。そのため、本校の教育実践を省みて、再度「地域に根ざした特色ある普通科高校を目指す」の願いのもと、平成12年度より全教職員、PTAそして生徒が一丸となって学校改革に取り組み、数年の実施後、問題行動が多かった時代をようやく乗り越え、現在ではかなり落ち着きを取り戻した。

最近の傾向として、ルール・マナーを守らない生徒や、特に目立たない生徒が問題を起こしたり、経済不況で親の所得が低下し家庭環境に問題を抱え、精神的に不安定になったりする生徒が出てきている。そこで、道德の授業にとどまることなく、地域で様々な体験をする機会や場を増やし地域社会と触れ合う機会を積極的につくり、生徒の健全育成に向けた学校の体制づくりと、社会の変化に対応した学校づくりを課題とした多様な体験を設定することが望ましいと考えた。生徒の実態から何が必要か、また、その要因は何か等、考え方を整理し生徒の実態に即した理想的なカリキュラムをつくり、家庭や地域との円滑な連携を図る等、様々な観点から実践可能で具体的な方法や内容とその対応の在り方を考えることで、規範意識の醸成に努めようとしている。

2 研究の目的

「心の教育」、広い意味での道德教育には、家庭、地域社会の協力が必要である。そして、あらゆる教育活動を通じて豊かな人間性を育て、よりよく生きていくための価値観を養い、生きるための実践的な力を育てなければならない。そのために、心を育てる道德教育の全体指導計画を示し、生徒の人間関係形成能力を育成し、自己実現に向けた意志決定能力を身に付けるようにすること、また、家庭、地域社会との協力やかかわりを通して、地域と連携した体験学習や地域社会との協力関係に根ざした活動を推進することをねらいとする。

3 研究の内容

本校生徒の規範意識を育成するため、以下の2点を中心に研究した。

- (1) 心を育てる道德教育の全体指導計画
- (2) 校内の指導体制の充実と異校種、家庭・地域との連携の在り方

(1) 心を育てる道徳教育の全体指導計画
平成21年度 守山高校「道徳教育全体計画」(案)

<p>生徒の実態 遅刻防止に努めたことで「時間を守る」、「約束を守る」等、基本的な生活態度の改善はみられた。 一方で、身だしなみ不備、身勝手な言動による迷惑行為、登下校のマナーの欠如等、集団の一員としての自覚、責任感が乏しい生徒が一部みられる。</p>	<p>教育目標 「歴史を創造し、社会の発展に寄与するたくましい人間をはぐくむ」</p> <p>校訓 「今、ここを生かす」</p> <p>基本方針 「人として、高校生としての基礎・基本を身に付けさせる」 →「明るく、元気で、爽やかに、当たり前のできる生徒の育成」</p>	<p>教育関係法規 ○ 日本国憲法 ○ 教育基本法 ○ 学校教育法 ○ 学習指導要領</p> <p>本校道徳教育の推進 ○ 人間としての在り方生き方を考えさせる教育を推進する。 ○ 花作り等、異校種交流を通して、地域貢献活動を推進する。 ○ 地域での交通安全啓発活動と、ボランティア活動や通学路清掃を通して、地域貢献・社会奉仕活動を推進する。</p>
<p>保護者・地域の実態 本校は、地域貢献・社会奉仕活動を推進しているため、教育活動に対して好意的な印象をもっている保護者、地域住民が多い。 しかし、一部の生徒による登下校のマナーの悪さから、苦情を寄せられることがある。</p>	<p>学習指導 ○ 学習習慣の育成 ○ 基礎学力の定着</p> <p>生徒指導 ○ 基本的な生活習慣の育成 ○ 身だしなみ指導の徹底</p> <p>進路指導 ○ キャリア教育の推進</p>	<p>学習 苦痛な学習から分かる学習へ →社会に必要な最低限の知識・技能の習得</p>
<p>学校生活の道徳教育 ○ 時間を守る、約束を守る ○ 集団の一員としての自覚を育てる ○ 自主的・主体的に行動する態度を養う ○ 身だしなみを整える ○ 挨拶、礼儀、マナー ○ 健康で明るい生徒を育てる</p>	<p>実践目標 リセット！ゼロからのスタート ○ 中学生生活をリセットして、新たに守高生活をスタート ○ 頭を鍛え、体を鍛え、心を鍛え、3年間で自分をリフォームし、ニューキャリアで卒業</p> <p>本校道徳教育の重点目標 将来、有為な社会人として、活躍するのにふさわしい道徳性の育成と実践力を養う。</p>	<p>生活 マナーとコミュニケーション →人間関係形成能力の育成、仲間づくり</p>
<p>進路 自己理解、自己実現、ドリカム →社会への出発準備</p>		

各学年のねらい「守高生の規範意識を育てる」		
<p>1 学年「自覚と責任」 ○ 総合的な学習の時間による「仲間づくり」を通して、他者とのかわり方を学び、望ましい人間関係の構築を目指す。 ○ オリエンテーション活動や日々の生活、授業、集会の中で規則を守る重要性を学び、社会で必要とされる規範意識を身に付ける。 ○ 進路意識をもたせることで、自分の在り方を深く考えさせ、物事に取り組む態度、姿勢を自ら改めようとする力を育てる。</p>	<p>2 学年「信頼と協同」 ○ 修学旅行を通じて、心身の調和のとれた発達を目指し、集団や社会の一員として望ましい人格の形成を目指す。 ○ 「ものづくり」の総合的な学習の時間を通して、物事へ創造的かつ主体的に取り組む態度を育て、自己を生かす能力を養う。</p>	<p>3 学年「誇りと自己実現」 ○ キャリア教育の推進の一環として、総合的な学習の時間を有効活用し自己実現を目指す。 ○ 学年集会を利用した道徳教育の実践（学年団による啓蒙活動）と身だしなみ、言葉遣いなど、社会人として必要な能力や態度を身に付けさせる。 ○ 夏休みの学年出校日に、全員参加の清掃活動（校外）を実施し、奉仕の心を育てる。</p>

総合的な学習の時間「Growing Up」		
<p>1 学年「仲間づくり」 人間関係形成能力の育成 生徒一人一人が自分の問題を自分で解決できる力を身に付け、「自尊心」「他人を尊重すること」「コミュニケーション」「問題を解決する技能」をテーマに取り組む。言葉・態度・文字を使った人間関係の在り方について学ぶ。 ＜FSS（フレンドシップシミュレーション）＞ ○ 相互理解のトレーニング ○ 怒りをコントロールする ○ トラブル解決法 ○ トラブル解決スキルの実践 ＜態度・言葉＞ ○ 客と店員の言葉遣いと態度 ○ 電話のかけ方、手紙の書き方 【参照 資料1】</p>	<p>2 学年「ものづくり」 情報活用能力と将来設計能力の育成 ものを作ることを通して、仲間と協力することの大切さを知る。9講座の中から、自分が関心をもった課題を選択し、情報の集め方や調べ方などの学び方やものの考え方、様々な機関と積極的にコミュニケーションを行う姿勢を身に付ける。 ○ 美しき守山づくり ○ ダンスづくり ○ 折り紙縁起物づくり ○ 俳句で水切り絵 ○ 広告づくり ○ 体づくり ○ 点描画づくり ○ 野菜、花壇、土づくり ○ インターンシップ 【参照 地域応援プロジェクト「守山エコプロジェクト」】</p>	<p>3 学年「夢づくり」 意思決定能力の育成 生徒一人一人が、進路の実現に向けて何が必要かを考え実践する。社会人として通用する教養とマナーを身に付け、自己の向上を図る。 ＜就職＞ ○ 働くことを考える ○ 正社員を考える ○ 講話「働くとは」（ハローワーク） ○ 講話「マナー指導」キャリアサポーター ＜専門学校＞ ○ 講話「専門学校選びのポイント」 ○ 専門学校の実際（OBによる） ○ 一般教養 ＜大学・短大＞ ○ 大学とは ○ 学部・学科の選定 ○ 費用について ○ 小論文実践、面接実践 【参照 資料2】</p>

各教科のねらい					
<p>国語科 ○ 小説教材を通して登場人物の心情を読みとる。しいては相手の気持ちを理解する力を高める。 ○ 古典教材を通して日本文化に触れ、日本人の心の機微を理解するとともに規範意識を身に付ける。 ○ 評論、随筆を通して人権・平和について取り上げられるよう工夫する。</p>	<p>数学科 ○ 数学的活動をする中で、筋道を立てて表現する能力を高めることが必要となるが、同時に判断力を育成する。 ○ 数学を学ぶ中で、工夫して生活や学習しようとする態度を育てる。 ○ 論理的思考を育む中で、相手の考えや行動を理解する力を育てる。</p>	<p>英語科 ○ 外国語（英語）学習を通じて、我が国や外国の言語や文化に対する理解を深める。 ○ 様々な価値観の違いを知りそれを尊重する態度の育成を図る。</p>	<p>地歴科 ○ 歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、変化していく現代社会で主体的に生きる人間を育成する。 ○ 社会と自分のかかわりを考察させることを通して、生きる主体としての自己を形成させる。</p>	<p>公民科 ○ 現代社会の諸問題を取り上げて考察させる中で、理解を深めさせるとともに、社会の変化に主体的に対応して生きていける人間を育成する。 ○ 社会と自分のかかわりを考察させることを通して生きる主体としての自己を形成させる。</p>	<p>理科 ○ 自然と人間生活とのかかわりを理解させ、その認識を深める。 ○ 事物の現象に関する観察・実験を行い、その本質を理解させ、判断力を身に付ける。 ○ 科学的な自然観を育成し道徳的判断力を身に付けさせる。</p>
<p>保健体育科 ○ 運動を実践することにより自己の責任を果たし、チームに貢献しようとする公正、協力の態度を育成する。 ○ 集団行動を通して時間を守る、ルールを守る、集団に参加し協力するといった態度を養う。</p>	<p>家庭科 ○ 家族の一員としての役割を果たし行動することを認識させる。 ○ 地域社会の一員として、共に支え合う重要性を認識させる。 ○ 生涯を見通した自分の生活について主体的に考えることができるようにする。</p>	<p>芸術（音楽） ○ 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	<p>芸術（美術） ○ 美術の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	<p>芸術（書道） ○ 書道の幅広い活動を通して生涯にわたり書を愛好する心情と書文化を尊重する態度を育てるとともに、書の伝統と文化について理解を深め、豊かな情操を養う。</p>	<p>情報科 ○ 情報化がもたらす利便性とそれが悪用されたときの危険性や、危険を防止するための法律による規制や保護及び情報技術によるセキュリティ対策を理解させるとともに、望ましい情報化社会のために必要なことを学ばせる。</p>

ホームルーム活動・学校行事		
<p>＜1 学年＞ ○ オリエンテーション ○ 進路セミナー（中京大学） ○ 進路別ガイダンス</p>	<p>＜2 学年＞ ○ インターンシップ ○ 進路別ガイダンス</p>	<p>＜3 学年＞ ○ 高大連携授業（中部大学） ○ プレドライバーズセミナー ○ 講話「社会人に求められること」</p>

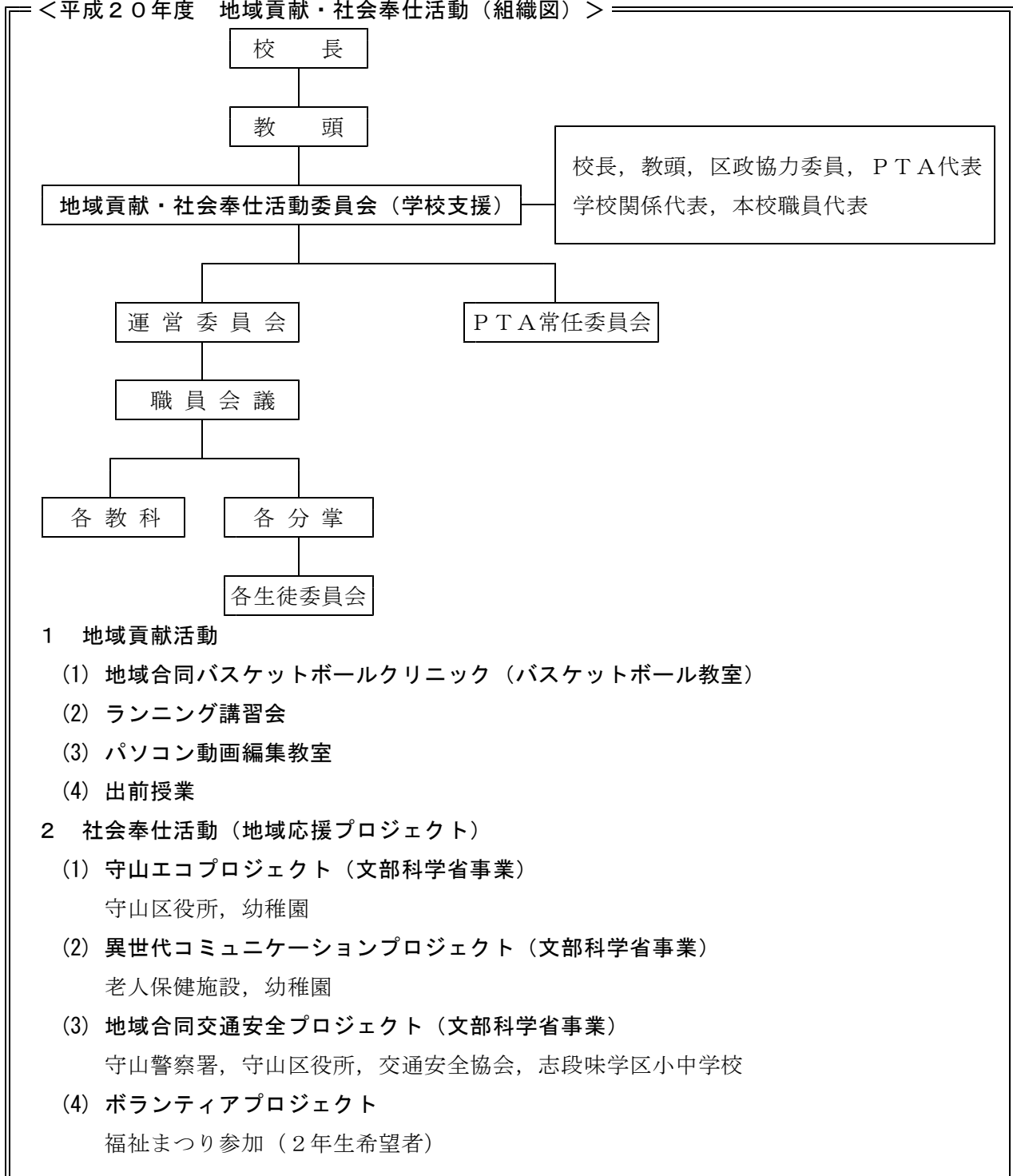
地域と連携した体験活動
<p>＜平成21年度「地域とあゆむ未来づくり」地域とあゆむ学校づくり推進事業＞ 1 「もりやま交通安全ミッション」生徒が交通安全指導高校生の委嘱を受け、地域での交通安全の啓発活動を行い、異世代間の交流を通して次世代の人間を育てる。 2 「花さかもりやま」異校種間で共同して行い、花のネットワークを作って暮らしやすい地域づくりに貢献する。（総合的な学習の時間「ものづくり」） 3 「めざせ！ホテルの里」地域の方々と一緒に、人と自然の共生を目指す教育活動を行う。</p>

(2) 校内の指導体制の充実と異校種、家庭・地域との連携の在り方

学校で学び、家庭ではぐくみ、地域で育つという教育の機能分担は失われつつある。生徒たちに社会や地域の人々とかかわる場を提供し、地域への帰属意識を高めることは大切なことである。総合的な学習の時間や体験活動を更に充実させることによって、道徳観、社会性の育成につながる学習を展開することも可能である。そのために、地域を舞台にした体験学習や地域住民との触れ合う活動など、地域との協力関係に根ざした活動を行っていく必要がある。

ここで、平成20年度地域貢献・社会奉仕活動と文部科学省事業「豊かな体験活動推進事業『地域応援プロジェクト』」の体験活動の一部を紹介する。

<平成20年度 地域貢献・社会奉仕活動（組織図）>



＜豊かな体験活動推進事業『地域応援プロジェクト』の活動内容・指導計画＞

1 守山エコプロジェクト

(1) 環境緑化 「総合的な学習の時間」 2年生

総合的な学習の時間「ものづくり」の一環として種から花壇苗を育成し、その苗を地域（コミュニティーセンター、幼稚園等）に配布し、環境緑化に貢献する。

(2) 環境科学 「総合的な学習の時間」 2年生，学校設定科目「生活基礎」 3年生

ア 学校周辺の用水路の浄化活動に取り組む。

イ 実験を通して水質浄化の方法を探る。

ウ 学校周辺の用水路の水質調査（PH，BOD，COD等）を定期的に行う。

エ 手づくりの炭焼き窯を活用して、環境整備で伐採した竹（廃物）を材料に炭を焼く。

オ 焼いた炭を用水路に投入し、水質浄化に役立てる。

2 異世代コミュニケーションプロジェクト 学校設定科目「ライフスキル」 3年生

地域の保育園を訪問し、生徒の手づくりお手玉を使って、昔遊びの伝承を図ったり、手づくり絵本の読み聞かせを行ったりする。

3 地域合同交通安全プロジェクト 「学校行事」 全学年

地域の小中学校，地域住民（特に高齢者）と合同で警察の指導の下，本校生徒が指導者となって交通安全教育・交通安全教室を行う。

【活動の実際】

1 守山エコプロジェクト

(1) 環境緑化

花づくりの経験がない生徒たちが，初秋にパンジーの種まきを行い，ポットあげや灌水等の育苗作業を体験して自分たちの手で苗を作り上げていった。出来上がった苗は，地域の保育園や幼稚園に配付したり，コミュニティーセンター等の花壇に活用したりすることで地域の環境整備に役立て，地域に貢献している気持ちをもたせることができた。



〔生徒や保護者によるパンジー苗移植〕



〔花壇整備〕

(2) 環境科学

本校の南東の湿地帯を水源としたわき水「才井戸流」（用水路）が本校の南を流れている。近年では，生活排水や学校からの雑排水が流れ込み，水質の悪化が心配されている。そのため用水路の水質調査を実施し，手づくり炭焼き窯を活用して，焼いた竹炭を用水路に投入したり，また，光合成細菌（EM菌）を投入したりして水質浄化を試みた。この取組によって具体的に成果があったわけではないが，

水質検査による水質の違いを知ったり竹炭による水質浄化を行ったりしたことは、環境教育への意識を高めることができた。



[自然燃焼（炭焼き）]



[用水路への炭の設置]

2 異世代コミュニケーションプロジェクト

学校設定科目「ライフスキル」のまとめとして、生徒が保育園に出掛け、園児と一緒に生徒の手づくりお手玉や布絵本を使った昔遊びの伝承を行った。また、給食の配膳指導の手伝いや園児のうがいの補助等、異世代とのコミュニケーションを通してボランティア活動の大切さを学ばせた。



[給食の配膳指導・お手伝い]

3 地域合同交通安全プロジェクト

(1) 交通安全指導高校生の育成

地域の小中学生、地域住民（特に高齢者）に対し、代表生徒が指導者となって交通安全キャンペーンや交通安全教室等を行った。愛知県交通安全教育チーム「あゆみ」と守山警察署交通課の指導の下、模範的な自転車走行の仕方や交通弱者への指導方法について講習を受け、交通安全指導高校生としての委嘱を受けた。委嘱後の活動として交通安全キャンペーンへの参加や小中学生、地域住民（特に高齢者）を対象とした交通安全教室を実施した。これは愛知県内、初の試みである。

＜交通安全指導高校生が実施する交通安全教室の内容＞

- 自転車、歩行者の通行ルール
- 自転車点検方法について
 - 「ブ」：ブレーキ
 - 「タ」：タイヤ
 - 「ハ」：ハンドル
 - 「ト」：灯火
 - 「シャ」：サドル
 - 「ベル」：ベル
- 反射板の効果（暗所での反射板の効果）



[交付式]

(2) 秋の交通安全県民運動への参加

地域の商業施設で9月29日（月）、30日（火）の両日、授業後に「秋の交通安全県民運動」の啓発活動に生徒、職員、保護者、守山警察署、守山区役所（まちづくり推進室）が参加して地域に貢献した。



[交通安全チラシの配布]



[ケーブルテレビの取材]

(3) 小中学生及び地域住民（特に高齢者）向け交通安全教室

交通安全指導高校生が地域の小中学生、及び地域住民（特に高齢者）に対して、「自転車の安全な乗り方」等の交通安全教室を実施した。

＜実施場所＞

名古屋市立志段味東小学校：10月10日（金）、名古屋市立志段味西小学校：11月10日（月）

名古屋市立志段味中学校：11月12日（水）、志段味地区会館：11月15日（土）

資料3 守高生が指導者となって

守山高校生による 交通安全教室のお知らせ

平成20年11月吉日
愛知県立守山高等学校

秋の候、地域の皆様におかれましては御健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは本校の教育活動に、御理解・御協力頂き誠にありがとうございます。

さて、「交通安全指導高校生」として守山警察署長より委嘱を受けた本校代表生徒が、地域の交通弱者の方々を対象に、自転車の安全な乗り方、安全な通行等の交通安全教室を開催いたします。御参加くださいますようお願い申し上げます。尚、当日は本校生徒の他に、本校職員、守山警察署員も同行致します。



※写真は、本校で平成20年7月10日に実施された『あゆみ隊』による教育・訓練の様子です。

日時：平成20年11月15日（土）10:30～12:00

場所：志段味地区会館

第1部「守山高校生と守山警察署員による交通安全教室」

第2部「アトラクション（エレクトーン演奏）」

◆お問い合わせ先
〒463-8503 名古屋市守山区中町東栄半元屋敷1287
愛知県立守山高等学校
電 話 052-728-2500
ファックス 052-728-2320



[交通安全教室（志段味東小学校）]



[交通安全教室（志段味中学校）]

(4) 地域合同交通安全大会

交通安全の集大成として、12月4日（木）に本校にて地域の小中学生及び地域住民の方々と合同で交通安全大会を実施し、警察の指導の下、本校生徒が発表及び講師を務めた。

- 本校生徒 活動場所：体育館
「交通安全指導高校生による『交通安全教室』の実践報告」
「愛知県警交通安全教育チーム『あゆみ』による講評並びに指導・助言」
- 小中学生及び地域住民 活動場所：会議室，図書室
「交通安全指導高校生による『交通安全教室』の実践報告と交通安全啓発イベント」
※ 愛知県交通安全教育ボランティア「かけ橋」によるマジック等を行い，交通安全教育・交通安全教室を実施した。
- 愛知県警察活動の紹介 活動場所：体育館
「警察音楽隊と音楽隊女性隊員（フレッシュアイリス）によるドリル演奏・演技」



[交通安全啓発イベント（地域住民）]



[本校実践報告]

4 研究のまとめと今後の課題

前回の学習指導要領から「総合的な学習の時間」が始まり，本校は，生徒の人間関係形成能力の育成の基礎に，「仲間」「もの」「夢」をテーマに教員が協力し合い新しい教材を作成した。生徒の実態に即した生きた教材として，学校教育のあらゆる場面で活用されている。

また，本校は平成17年度より地域と連携した様々な活動を実施している。その内容は，身近な環境問題を取り上げ，生徒自身による学校周辺の環境整備や，地域貢献・社会奉仕活動を通して，勤労の大切さを考え，自信と帰属意識を養う活動となっている。この活動に参加した生徒たちは，人に尽くしたり社会で役立つことでやりがいを感じたりする体験を得ることができ，自分が将来大人の社会でどのように生きるかという課題に出合えたと感じている。そして，地域社会と触れ合うことにより，コミュニケーション能力をはぐくみ，学ぶ意欲，思考力，判断力などを高めることができた。

学校教育で大切なことは，「生きる力」や，自ら学び自ら考える力を身に付けられるような教育活動を展開し，カリキュラムを整備していくことである。そのために，学校や生徒の実態に即した道徳教育全体計画を示すことは，生徒が身に付けるべき道徳の内容を分かりやすく表し，道徳的価値について生徒自ら考えるきっかけとなり，理解を深めるためにも大切な役割を担っている。

学校はどのようにして生徒の道徳性，社会性を養っていったらよいかが急務の課題となっている。それは，様々な集団の中での人間関係の経験や学びを通して形成し発達していくものである。したがって，集団における人間の相互関係を本質とする学校での体験は，生徒たちの道徳性，社会性の育成にとって欠くことのできない機会である。そこで，社会の一員としての自覚や責任，共に生きる精神や実践力を養うものとして，学校や地域における体験活動のもつ意義は大きい。教育活動が生徒の内面に響き，確かな学力や道徳性，社会性を育成するために，学校，家庭，地域の教育力，関係機関との連携協力を柱に，今後も実践を続けていきたい。

この顔はどんな気持ち？

次の顔文字にあてはまる気持ちはどれか？線で結べ。

- ① o(^◇^*)o ② (^_^) ③ (TΔT) ④ (-_-) ⑤ (；´Д｀)o ⑥ m(._.)m

「おいこらっ」 「くすんっ」 「すみません」 「えへっ」 「おいおい」 「わーい」

< >に気持ちを書き、その下に顔の特徴を書こう。(< >の中の明朝体は解答です)



< 幸せ >

口の端があがっている
頬があがり、広がる
目尻が下がる
眉がカーブを描く



<① 悲しい >

口は、
目は、



<② 怒っている >

口は、
目は、



<③ 有頂天 >

口は、
目は、



<④ おびえている >

口は、
目は、



<⑤ 困っている >

口は、
目は、



<⑥ 嫉妬(しつと) >

口は、
目は、



<⑦ いじわる >

口は、
目は、



<⑧ 困惑 >

口は、
目は、



<⑨ 恥じている >

口は、
目は、

怒りのコントロールステップ

① 怒っているのを認める

- ・ 身体はどうなっている？（表情・しぐさ・体の様子）
- ・ 言葉はどうか？（言葉づかい・声の調子・話す速さ）

② 落ち着くには

- ・ 深呼吸3回
- ・ プハーと声を出して息を吐く
- ・ 足踏み
- ・ 水を飲む

③ 誰かに話す

- ・ 相談する相手を決める
- ・ 自分の気持ちを話す

④ 独りになり振り返る

- ・ ストレス場面から離れる
- ・ なぜ怒ったのか？
- ・ どうすればよかったか？
- ・ 今後どうしよう？（解決策を考える）

生涯にわたるキャリア形成の基盤を培うために・・・

本校では、キャリア教育の推進を学校の目標に掲げ、「総合的な学習の時間 (Growing Up)」を中心に体験活動を取り入れた系統的・体系的なキャリア教育を推進し、進路実現を目指しています。



インターンシップ (スーパーにて)

1 教育の基本方針

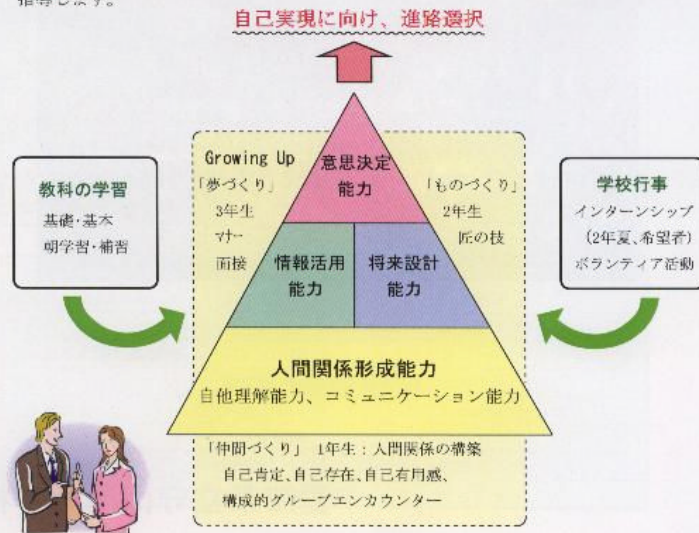
「人として、高校生としての基礎・基本を身に付けさせる」

— 当たり前のできる生徒の育成 —

- 学習：苦痛な学習から分かる学習へ→社会で必要な最低限の知識・技能の習得
- 生活：マナーとコミュニケーション→仲間づくり
- 進路：自己理解の深化、将来設計の立案→社会への出発準備

2 本校におけるキャリア教育

生徒の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を推進するために、本校では、人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力）の育成を基礎として、情報活用能力、将来設計能力、そして自己実現に向けた意思決定能力を身に付けるよう指導します。



(3) 3年生のキャリア教育の流れ

目標	進路達成への努力 人間力の育成											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
進路	・進路希望調査			・進路セミナー			・進路希望調査			・マナー講話		
行事	・個別面談		・実力テスト		・補習実力テスト		・推薦入試説明		・前期補習		・卒業生講話	
総合	「夢づくり」・進路実現に向け進路希望別に準備及び対応											
学習	・キャリアサポーターによる就職指導 (主に意思決定能力の育成)											
学習	・朝学習による一般教養の定着 ・補習及び実力テストによる学力向上 ・高大連携授業											

【キャリア教育の指導】

- ・個別面談を通し、最終的な進路希望を確認する。
- ・保護者会で、具体的な進路先の確認と準備の指導をする。
- ・就職希望者への個別指導（受験企業の決定、面接練習、履歴書作成）をする。
- ・進学（推薦）希望者への面接、小論文指導をする。
- ・就職未決定者の企業見学、個別面談指導をする。
- ・就職内定者への事後指導をする。
- ・保護者会にて卒業後の進路に向け準備させる。



キャリアサポーターによる就職指導



高大連携授業（中部大学）



就職個別指導



卒業生による講話